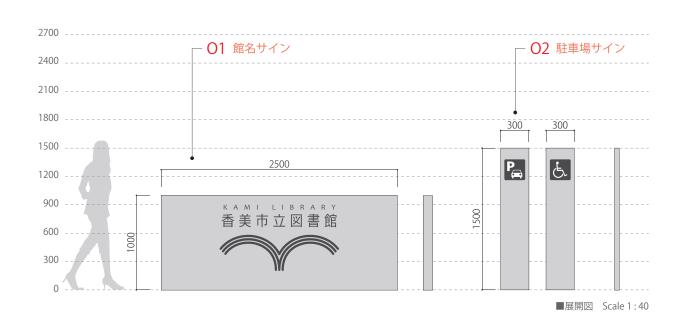
色調・フォント・ピクトは誰にでも認識できるような選定をします。

色 調・・カラーユニバーサルデザインを参考に高齢者や色弱者にわかりやすい色使いを選定します。

フォント・・可読性や視認性、判読性が高くなるようにデザインされたユニバーサルフォントで選定します。

大 き さ・・国土交通省が推奨する公共交通機関の移動等円滑化ガイドラインを参考に決定します。

ピクトグラム・・日本国内で最も理解されやすい JIS 規格を使用します。







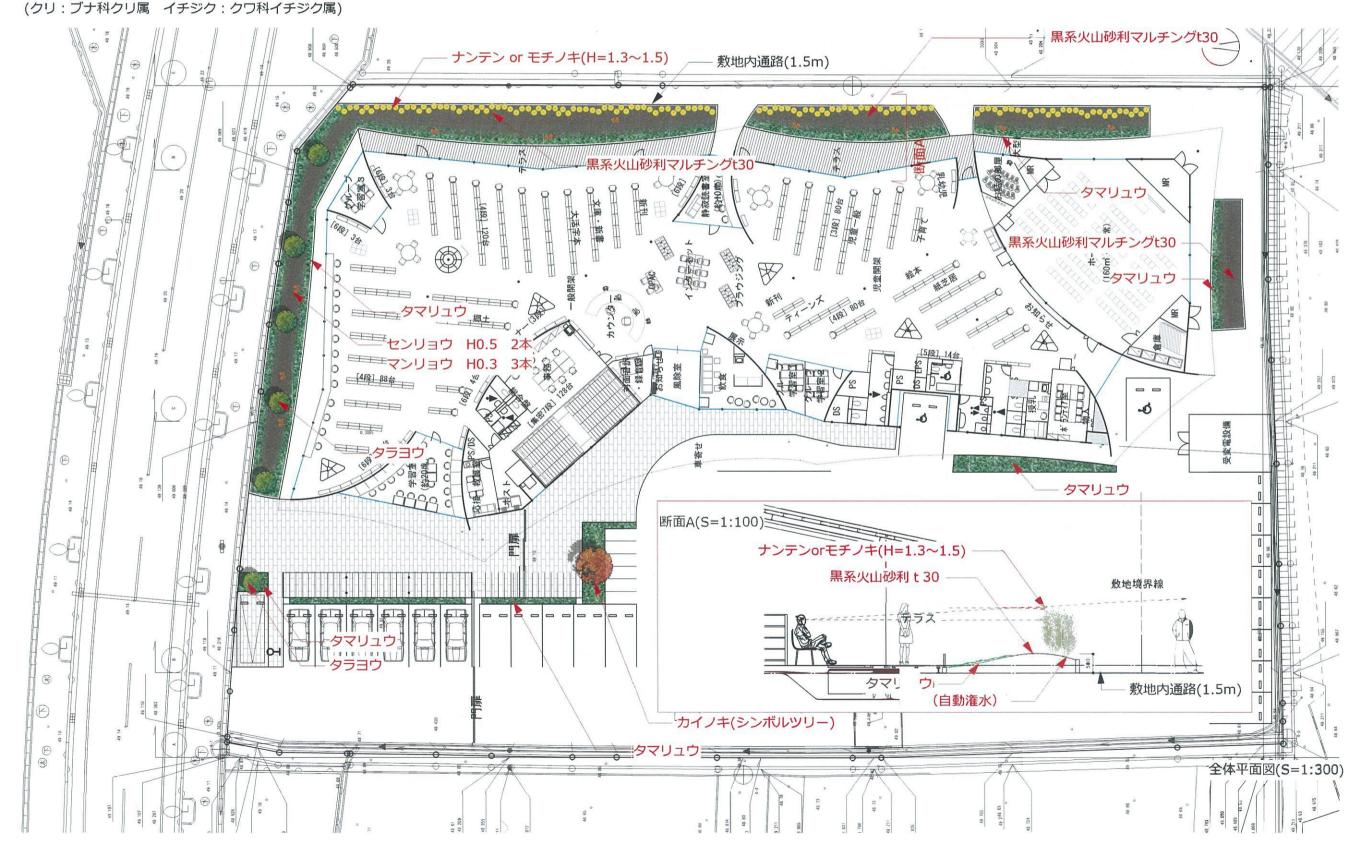




 Scale
 No.
 date

 香美市立図書館建設工事
 基本設計業務

- ・学問の木であるカイノキをシンボルツリーとし、道路側とアプローチに八ガキの木であるタラヨウの列植を行う。 また、タマリュウとマルチングをベースにセンリョウ・マンリョウを要所に植栽したシンプルなプラン。 (マルチング:保湿、雑草抑制のための黒系火山砂利)
- ・東面はアンジュレーションを付けた植栽地にナンテン、もしくはモチノキ(共にH=1.3~1.5m)を植え、隣地との目隠しとする。
- ・環境変化・病害虫に強い樹種を中心とし、管理コストに配慮。
- ・隣地作物(クリ・イチジク)と違う科・種の樹木を選択し、隣地作物に影響の出る病害虫の発生を予防。



植栽

カイノキ(落葉樹) ウルシ科 見ごろ: 9~11月(紅葉) 学問の木とされる。



ナンテン(常緑樹) メギ科 見ごろ:12~2月(実)



モチノキ(常緑樹) モチノキ科 見ごろ: 11~3月(実)



タラヨウ(常緑樹) モチノキ科 見ごろ:10~1月(実) 文の木とされ、はがきの木と呼ばれる。



見ごろ:11~3月(実)



マンリョウ(常緑樹) ヤブコウジ科 センリョウ(常緑樹) センリョウ科 見ごろ:11~3月(実)



タマリュウ ユリ科 多年草 +黒系火山砂利マルチング



2019. 01. 29

[北]

[全景(南)]









[中央]

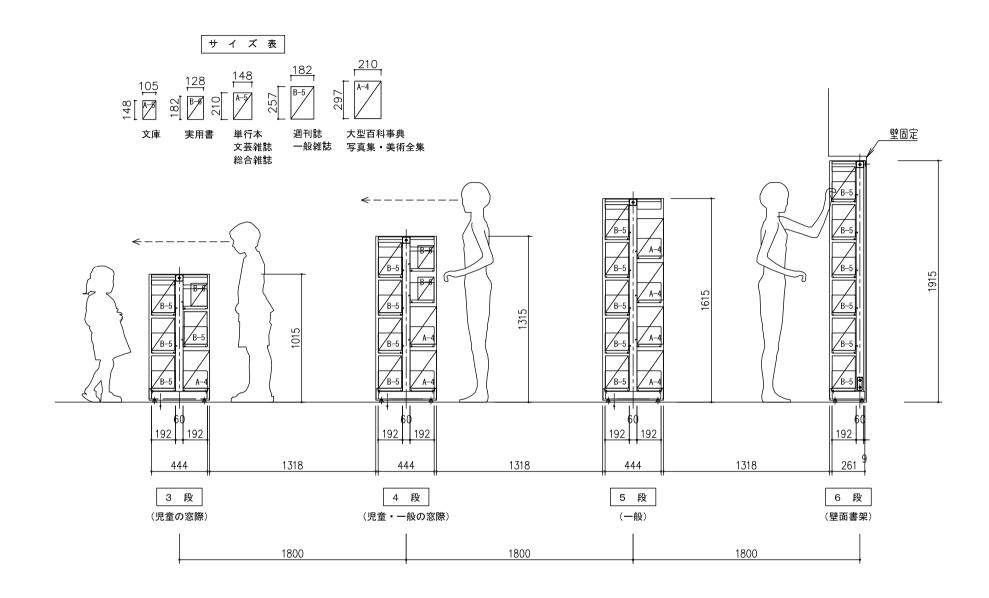


[南]

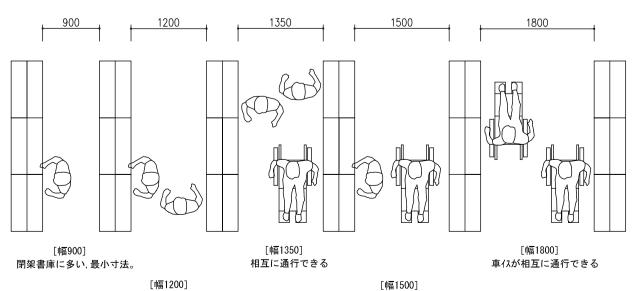








香美市立図書館建設工事 基本設計業務



書架利用者の後を車ほが通行可能

1 耐震安全性の目標

大地震後、構造躯体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、「官庁施設の総合耐震計画基準」 による耐震安全性の分類を構造体はII 類とする。

2 設計荷重

1)固定荷重

実状に応じて個別に設定する。

2) 積載荷重

積載荷重は、建築基準法施行令第85条、及び「建築構造設計基準及び同解説〔平成22年版〕」(国土交通省官房官庁営繕 部監修)に準拠して設定する。下表に積載荷重を示す。

 N/m^2

			N/m ⁻	
室名	床、小梁設計用	柱、梁、基礎 設計用	地震力計算用	備考
屋根	980 *1	0	0	
事務室	2900	1800	800	
便所・飲食スペース	1800	1300	600	
学習室	2900	2100	1100	
開架スペース	5900 以上	5400 以上	4900 以上	実状に応じて設定
ホール	3500	3200	2100	
倉庫	7800	6900	4900	
集密書庫	11800 以上	10300 以上	7400 以上	実状に応じて設定
設備室				実状に応じて設定
etc				

*1 短期荷重とする。

3) 積雪荷重

建築基準法施行令第86条、高知県建築基準法施行細則第19条の2及び、平成31年1月15日に施行される改正告示(国土交通省告示第80号)に準拠し設定する。

 $S = d \cdot \rho \cdot \alpha$

S : 積雪荷重

ρ : 積雪の単位荷重

 $(20 \text{ N/m}^2/\text{cm})$

d :垂直積雪量

α : 改正告示による割り増し係数(屋根版種別及び屋根勾配により決定)

4) 風荷重

建築基準法施行令第87条及び平12建告第1454号により設定する。

基準風速 38 m/sec (参考 東京都 23区 34m/sec, 大阪府 大阪市 34m/sec, 福岡県 福岡市 34m/sec)

地表面粗度区分 Ⅲ

5) 地震荷重

建築基準法施行令第88条及び昭55建告第1793号により設定する。

地盤種別 第2種地盤

標準せん断力係数 一次設計時(中地震) Co = 0.2 保有水平耐力時(大地震) Co = 1.0

地域係数 Z = 0.9

3 構造概要

1)地業形式

設計GL-1.0~1.7m以深の砂礫層または玉石混じりシルト混じり砂礫を支持層とし、地盤改良を用いた直接基礎とする。

2)架構計画概要

屋根架構は、スパン10m以上の無柱空間の確保、建物の軽量化による耐震性の向上及び地業コストの低減のため、主体構造に鉄骨造を採用する。これを支持する架構は、屋根の重量のみを支える柱に鉄骨造、屋根の重量を支え、地震及び風による水平力に抵抗する架構に鉄筋コンクリート造を採用する。また、鉄筋コンクリート造架構は平面計画及び、剛性の平面的なバランスに配慮した配置計画とする。